

令和2年度 第1回

早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会

会 議 次 第

日時：令和2年12月11日（金）
15時30分～

場所：早稲田大学所沢キャンパス
100号館5階第一会議室

1. 開会・あいさつ

2. 議 事

- (1) 前回評価委員会議事録の承認について
- (2) B地区におけるモニタリング調査の結果について
- (3) A地区における照明施設環境対策の検討状況について
- (4) その他

3. 閉 会

令和2年度 第1回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会

日時：令和2年12月11日（金）15時30分～17時30分

場所：早稲田大学 所沢キャンパス 100号館 第一会議室（5F）

出席委員：A委員長、B委員、C委員、D委員、E委員

1. 開会・挨拶

○評価委員会事務局（F）：皆様お揃いですので、これから「早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会」の本年度の第1回を、開催させていただきます。本日はこれまで、A地区あるいはB地区の現地を見ていただきまして、お疲れ様でした。従来ですと大体10月か、遅くとも11月の第1回の評価委員会で現地を見ていただくのですが、今回は12月に入りまして、そういった意味では晩秋といいますか初冬といいますか、新たな狭山丘陵、あるいはB地区等の自然環境の様子を見ていただきました。私も改めて美しい景観を見て、この委員会で議論されているいろいろな管理ですとか、活動が進んでいることを実感しました。今日は概ね17時までの短時間ですけれども、冒頭で集まった時にお話しさせていただいたように、前年度の3月の評価委員会がコロナの関係で中止になってしまいましたので、盛りだくさんの内容もあるのですが、次回3月の委員会も想定しながら、端折れるところは端折って次回との関係の中で、報告しご意見をいただければ、という風に思います。開会に先立ちまして、早稲田大学のG総務部長から、ご挨拶いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○早稲田大学総務部長（G）：皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、早稲田大学総務部長を務めておりますGと申します。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は、「早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会」にお越しくございまして、誠にありがとうございます。この委員会は年2回ということですが、今回は所沢キャンパスにて行う回になっております。今年は大変な年になりまして、1月から新型コロナウイルス感染症に世界中が翻弄されてきたというところで、今また先の見えない状況ではあるのですけれども、いろいろな報道を見ておりますと、ステイホームが一番効果的ということで、人間が活動をやめると自然環境にとっては良い効果を及ぼしている、という報道がされておりましたから、そうやって考えると自然にとって人間はあまりふさわしくないのかな、と思うこともありましたけど、なかなか困難な時期かと思ひます。先ほど見ていただいた B 地区の保全活動なので

すが、ここの自然環境はただ放っておけば良いというものではなくて、里山保全という意味合いがありますので、そのためには維持管理作業、あるいは利活用のためのモニタリング作業・調査、というものが欠かせないと考えております。自然環境調査室が行っている日々の保全活動・調査活動の取り組みについて、先生方のご経験ないしはご専門の立場からご意見をいただければ、という風に考えています。また、今日は A 地区の競技場の脇にあります湿地帯についても、ご覧になっていただいたということで、今年の東京 2020 オリンピックパラリンピックについては、延期ということになりますけども、来年実施されるということになりますと、この競技場がイタリア代表チームのキャンプ地になりますので、事前にキャンプ利用をするということになります。陸上競技場の照明施設については、イタリアチームからは、長い時間点灯してほしいという要望もありますが、7 時半までということを取り決めを行っております。その点灯につきましては、これまで 3 回試験点灯を行っております。その点灯につきまして、保全活動のモニタリングを行ってきたということもありますので、その点につきまして対策案について、先生方にご意見いただければ幸いに思います。今日は、何卒よろしく願いいたします。

○評価委員会事務局（F）：G 総務部長、ありがとうございます。それでは議事に移りたいと思いますが、その前に本日の資料確認をさせていただきます。会議次第が A4 で 1 枚あります。その次に、前回昨年 11 月の評価委員会議事録、A4 横長の埼玉県生態系保護協会の名前が入った調査報告レポート、A3 になりますけれども、左止めでトンボ類を指標としたエコロジカルネットワークの資料、同じく A3 の A 地区の照明施設環境影響評価事前調査中間報告、自然環境調査室でご用意いただいたものとして、クリアファイルに入った A4 横長 1 枚の哺乳類撮影用赤外線カメラ設置場所、B 地区自然環境評価委員会と書かれた横長の資料、環境保全センターから出させていただきました水質調査結果資料です。以上ですが、ございますでしょうか。それでは資料が確認できたところで始めたいと思いますが、毎回オブザーバーということで埼玉県と所沢市にご参加いただいておりますが、今回は 12 月議会中ということで欠席というご連絡がありました。委員の先生方については、5 名全員がお揃いでご参加いただいております。そういうメンバー構成で進めさせていただきたいと思います。これ以後の議事は、A 委員長にお願いしたいと思います。A 先生、よろしく願いいたします。

2. 議事

(1) 前回評価委員会議事録の承認について

●A委員長：それでは、時間もあまりなさそうなので、早速議事次第に従って進めさせていただきます。議事の(1)前回評価委員会議事録の承認について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○評価委員会事務局（F）：議事録につきましては、学内の関係者あるいは委員の先生方に事前に見ていただいております、本日までの間に追加修正等の連絡は来ておりません。

●A委員長：はい。委員の皆様も承認ということによろしいでしょうか。ご承認いただけただということで、確認いたしました。それでは、(2)B 地区におけるモニタリング調査の結果について、ご説明をお願いいたします。

(2) B地区におけるモニタリング調査の結果について

- 1) (公財)埼玉県生態系保護協会（F）：説明省略
- 2) 早稲田大学自然環境調査室（H）：説明省略
- 3) 早稲田大学環境保全センター（J）：説明省略

【質疑応答】

●A委員長：それぞれの取組状況について、詳細なご報告をありがとうございました。内容が濃いので、時間をかけているとあっという間に 30 分が過ぎてしまいますので、どこからでも構いませんので、ご質問あるいはご意見ございましたら、ご発言お願いいたします。いかがでしょうか。生態系保護協会のご報告、自然環境調査室のご報告、それから最後に水質の関係です、いかがでしょうか。

Hさんからご報告がありました、非常に重要な問題のお話をいただけたのかと思いました。この資料の 2 ページ目の裏、番号で言うと 6 番からのお話ですかね。生物多様性のどの部分で持続的に維持できるか、ということのをこれからはしっかり議論して見据えていかななくてはいけない、というご認識を持たれているというお話でした。それはこの委員会としても、どういうことが結論付けられるか分かりませんが、我々が十分意識しなくてはいけないのではないか、という感想を持ちました。いかがでしょうか。何かご質問ございますか。

●C委員：Hさんが発表なさったものの、今 6 番目のパワーポイントだと思うのですが、それを今、A先生が使って議論しようか、という感じだと思います。今までの生物多様性のこの一軸、縦の軸だけを使っていろいろなことを議論してきていると思うのですが、一軸だけだとある程度の多様性を維持するためには、そこに向か

ってただエネルギーを使うとかコストをかけるとか、そういう風な感じの議論になってしまうと思います。二軸を横軸に、こういう部分を使っていることによって、コストとベネフィットという部分が横軸に入って、長期的な将来に向かってこの B 地区の価値を、持続的に維持する方向性が、非常にクリアに示せるのではないかと思います。前にも、いろんなところで何回も議論をしていて、ここの B 地区の価値をどういう風に評価するか、ということに繋がっていくことになると思うのですが、こういう図を使って説明して、我々が今こういう方向でここにいるんだとか、もうちょっとこっちに行ったほうがいいんだとか、これはコストがかかりすぎるのもうちょっとこっちの方がいいんだ、ということをや非常に視覚的にも分かりやすく説明できる概念だと思います。そういう意味では、これから将来に向かってこの B 地区をどういう風にしていくとか、どう利用していくとか、どう広報していくとか、というようなところを具体的に示せるという意味では、非常に良いのではないかと私は思います。以上です。

●A委員長：他の先生方、いかがですか。今、C先生のお話で思ったのですが、A3 横長の資料でエコロジカルネットワークを見ると、種の供給場所としての重要性が非常に高い場所というお話があったのですが、それを維持・充実させていくためには、コスト面との兼ね合いをどう考えたら良いかという気がします。過剰に期待されると非現実的にもなるので、その辺は役割分担も含め考えなくてはいけないという風に思いました。

●D委員：大変興味深いご報告、ありがとうございます。今ちょうどA委員長もC先生も、このスライドについてお話をされていたと思いますけれども、この冒頭のところに「持続可能な里山管理体制に向けた狭山丘陵のモデルケースの確立」という大きな目的というものがあって、私委員としての年数は少ないですけども、拝見・参加させていただきながらも、かなり順応的管理をしながら旧里山地区を保護管理していて、生態系を高めるということを本当に熱心にやられていて、早稲田大学としてはある程度成功に至っているのではないかと思います。それは先程前半で、生態系保護協会から発表のあった A3 の 2 枚目のトンボの種類だけを挙げても、この学内の A 地区と B 地区に非常に多くの生物多様性が客観的なデータとして得られている、ということをはっきりとされて、これらのデータを基にして里山環境に大学としても非常に留意した保護管理をされていると思いました。そんな中で、A3 の図を見ると、早稲田大学は狭山丘陵の赤く囲まれたところに位置しますが、今ちょうど所沢市の「生物多様性戦略」を策定中だとのことですが、所沢市内だけ見ても

非常に重要な水辺環境ですし、隣の入間市とか瑞穂町、東大和市や武蔵村山市とか、こういう広域で狭山丘陵を見ていく中でも、早稲田大学の湿地はネットワークの「核」の場所であり、それが狭山丘陵モデルケースになっていくのかな、と思うわけです。保全活動を進めるとなると、それなりにコストもかかりますし、労力もかかってくるのは避けられないと思います。大学の設置基準の中では、大学の目的というのは教育と研究だけではなく、社会貢献というのもあるので、やはり早稲田大学としてこれだけの重要な湿地や自然環境があるので、それを活かしたこの狭山丘陵モデルケースを、もちろん所沢全体へのネットワークというものもあるのでしょけれど、他の自治体にも行政の取組みと一体的に広げていくということは当然必要かな、という風に思います。その中で、右側のところに教育・研究活用というところがあって、私も専門は環境教育なものですから、環境教育利用というものは当然重要だと思っていて、いろいろと留学生に対する環境教育利用とか、市民に向けてというのはあると思いますけども、このモデルケースの推進に際して、他の自治体や他の保護地域に対して、どういう風な情報提供ができるかというのは、環境教育の一環として、非常に重要な視点だと思っています。ちょうど、今年コロナでなかなか効果的な環境教育ができないという時だったのですが、こういう時に環境教育の企画を、頭で考えるというのが当然重要で、来年再来年くらいに始める企画を、今の段階からまた一緒に考えていきたいなという風に思っています。以上です。

●A委員長：ありがとうございます。

●B委員：私もHさんのお話を聞いて、ここのところずいぶん日頃このことが頭の中にあって、こういう今日の発表だったのだと思いました。それで今3人の委員の方のお話を伺って、私なりの感想なのですが、今日はトトロのふるさと基金のIさん、事務局長が来ていましてまた後でお話があるかもしれませんが、ここに早稲田大学がキャンパスを構えるということになって、狭山丘陵全体の保全やキャンパス内の里山管理、生物多様性を高める、というのがこの地域での早稲田大学の使命かなという風に思います。社会的な責任があって、ぜひそれを進めていただきたいと。今トトロのふるさと基金でも、まさにここの持続的に里山の維持管理体制をどういう風に持続していくか、というのが最も一番の課題で、寄付で成り立っている団体ですが、今試行錯誤でやっているところです。早稲田大学にも、ぜひ連携し一緒に取り組んでいただきたいという風に思います。この資料に書いてあるように、大学ですから一番の目的は教育・研究利用で、里山の活用というのも、その一環としてあ

るのかなと思います。それだけでも十分維持管理する、あるいは維持管理の研究成果というのはすごく価値がある、それだけでやっていく価値があるものだという風に常々思っています。もう少し付け加えれば、学生だけでなく市民へのそういう成果を提供ということで、市民対象にも環境教育をやっていただきたい、あるいはさらに幅広く市内や県内の教育機関への、これもできたら現状の今こういう風に早稲田大学校内の生物多様性が高まっているという研究成果をですね、情報提供する、それだけでも十分社会的な価値があることではないかという風に思います。以上です。

- A委員長：ありがとうございます。E先生、いかがでしょうか。
- E委員：今日はありがとうございました。素晴らしい学内の湿地を見せていただきまして、日々Hさんの努力が分かるような気がします。私は東京都側の狭山丘陵のいろいろな保全管理計画にも携わっているのですが、やはり早稲田大学の敷地内の自然は狭山丘陵の中心的位置にあって、まさに早稲田大学が、狭山丘陵保全の先端的な役割を担っているのではないかと、思っています。先程、Fさんからトンボのネットワークの話がありましたけど、私はこの2年間、B地区周辺のチョウの調査もしていますが、日本の平地性のチョウのほとんどが狭山丘陵で見られます。この10年間で、74種類くらい確認していますが、そのうちの65種類くらいはこの早稲田大学の湿地と、北側の端の横の道路周辺で見られるのですね。こんなに多様性に富んだ素晴らしいところは、近年は他に探してもあまりない。まさに、首都圏の自然環境の中心的な場所として情報発信できるのではないかなと。それをどういう風に発信して、早稲田大学周辺の自然は素晴らしいところなんだよ、ということ世間に知らしめるというのが、これからの大きな課題ではないかなと。例えば、ホームページなんかを見ても、普通の人はおもしろくないと思いますよね。そういうところに、工夫してアピールできるものがあるのではないかなと。集客の1つとしてもイベントの案内なんかも、どこもそうなのですが、何か良さを発信できるようになると良いなと思っています。
- A委員長：時間もあまりないので、これに関する議論はこれまでということにいたしますけども、全体の詳細やご報告の中で特に確認しておきたいなどのご意見などがありましたら、一言二言お願いしたいのですが。
- E委員：先程パッチワーク状に、という話がカヤネズミであったのですが、ヨシ原のパッチワークって分かるのですが、距離ですよ？ カヤネズミも誘導できる距離というのがあるのだと思うのですが、その辺の根拠を知りたいと思います。

●A委員長：Hさん、いかがでしょうか。

○早稲田大学自然環境調査室（H）：カヤネズミの行動圏は、以前文献で見たものですと400 m²というのがあったと思います。ただカヤネズミの生息に影響を及ぼす空間スケールは半径 500m 程度との報告があり、管理計画では、昨年見つかった巣からおおよそ 400m くらいの範囲まで生息に配慮した形での刈り取りを予定しており、距離としては妥当なのかな、とは思いますが。ただ個体への直接的な影響が想定される行動圏自体はそれより狭いので、特に昨年の古巣に近いところでは、やや粗めに刈る、もしくは植生を残すという選択はあると思います。その方向で今後検討したいと思います。

●A委員長：よろしいでしょうか。他にはありますか。それでは、来年 3 月にこの委員会が予定されていますので、その委員会の時に今日いただいた内容も併せて、改めてご質問やご意見を承ってもよいかと思いますので、B 地区におけるモニタリング調査の結果につきましては、以上といたします。それでは、(3)A 地区における照明施設環境対策の検討状況について、ご説明をお願いいたします。

(3) A 地区における照明施設環境対策の検討状況について

- 1) (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F) : 説明省略
- 2) 早稲田大学自然環境調査室 (H) : 説明省略

【質疑応答】

●A委員長：ありがとうございました。今のご報告に関して、ご質問やご意見などいかがでしょうか。何かございますか。幸か不幸か、オリンピックが 1 年延期になったのでライトに対する対応、保全措置に関しては、実際に現場で見ることができましたし、植栽した木は来年はもう少し生育していて、しっかり機能を果たしてくれそうな期待が持てる内容となっていますが、いかがでしょうか。特にございませんか。先程の映像で、アライグマの食害ですね、何か対応しないといけないように思います。

●B委員：ワナは仕掛けたのですか？

○早稲田大学自然環境調査室（H）：仕掛けています。

●D委員：アライグマやイエネコは同じ個体なのですか？ それとも複数個体いるような感じなのでしょうか。

○早稲田大学自然環境調査室（H）：アライグマは複数個体で間違いありません。サイズ等で

明らかに他個体と思われる個体が写っています。イエネコは、今のところ写っているのは1個体ですが、調査中に目視で複数個体を確認しています。

●A委員長：よろしいでしょうか。それでは、予定の時間を少し過ぎてしまっていますので、今日の議事はこれで終了といたします。(4)その他はいかがでしょう。

○評価委員会事務局（F）：毎回、オブザーバーである埼玉県あるいは所沢市にご参加いただいている場合、コメントをいただくのですが、冒頭お話ししました通り今日は欠席なものですから、その他のところは特にございませぬ。

●A委員長：長時間にわたってご移動いただきまして、またご説明いただきありがとうございます。議事の進行にもご協力いただき、感謝申し上げます。それでは進行を事務局にお返しします。

○評価委員会事務局（F）：委員の先生方、ご参加いただいた皆様、長時間にわたりまして現地を含めて様々なご意見いただきまして、ありがとうございます。コロナがこういう現状なものですから、次回は3月ということで、大隈会館で毎年行っておりますけれども、予断を許さない状況ではあるものの、ぜひとも次回さらに今日いただいたご意見も踏まえた議論を深められればと思います。時間が遅くなりましたが、本日の「早稲田大学所沢校地 B 地区評価委員会」を、これにて終了させていただきます。どうもありがとうございました。